

器楽指導で大切にしたいこと

1 鍵盤ハーモニカの指導

《ハーモニカと鍵盤ハーモニカ》

音の出る原理は、アコーディオンと同様に、空気がリードを通過することによって、リードを振動させ発音する楽器である。

ハーモニカの利点は簡便であることと、耳で聴きそして判断する力、つまり感覚を高めるのに有利な点である。

これに対し鍵盤ハーモニカは、旋律奏や和音奏の指導に適しているが、ハーモニカとのもっとも大きな違いは、音の配列を視覚的にとらえられることである。また、タンギングをすることによって音の立ち上がりが明瞭となり、歯切れのよい演奏が可能である。

(1) 発音練習

- 一般的なタンギングは「t u」（テュー）と発音させる場合が多いが、「と」と発音する方が理解が早く徹底する。「と」と発音することによって、口腔が開き共鳴が得やすいので、後々響きのある音色にすることができる。

- ① 簡単なリズムで「と」と発音する。
- ② 無声音（声を出さずに「と」という）で同様に練習する。
- ③ パイプを持ちタンギングをする度に頬に速い息が当たることを確かめる。
- ④ パイプを楽器に接続し、鍵盤を人差し指で押し、同様にリズムを吹く。
- ⑤ 慣れてきたら、リズムを違えたり、他の鍵盤を使う。
- ⑥ 一人一人のタンギング奏を確認する。

- タンギングの指導では「と」と「ふ（意識して下手に）」の違いを極端に演奏し、タンギングの大切さを理解させる。

(2) 指の指導

- 「ド」の位置を理解させるための導入の方法として、二つの黒鍵を子どもたちに意識させるとよい。その方法としてはジャンケンのチョコキやピースのサイン等がある。（チョコキの左下、二つのお山の隣です）
- 「卵を右手で軽く握りましょう」「強く握ると卵がぐしゃっと割れてしまうよ」「この形をこわさないで弾くととても上手になれるよ」
- 指が交差する運指（指くぐり）の指導には、特に注意が必要である。

2 リコーダーの指導

(1) リコーダーの音色，響きを味わう。

ア CD等でリコーダーの音色を聴く。

- (ア) 500年も前から活躍していた楽器で，みんなで腕前を競っていた。
- (イ) ヘンリー8世は，リコーダーが大好きで76本も楽器を持っていて，毎日練習していた。
- (ウ) 「鳥のようにうたう楽器」という意味もある。

(2) リコーダーの基礎的な奏法を知る。

ア 姿勢

(ア) 正しい姿勢は，美しい音をつくるもと

a いすに座って演奏するとき

顔は正面を向き，足は床に平らに置く。

b 立って演奏するとき

背筋を伸ばし，軽く足を開き，まっすぐ安定して立つ。頭が前に垂れ下がり，前かがみにならないように気を付ける。

(イ) 譜面台を使うのが望ましい

(ウ) 楽譜を机に置く場合

a 机の上にリコーダーやひじが乗らないように机と体の距離は十分取る。

b 顔が楽器に覆いかぶさって，伏し目がちにならないよう気を付ける。

① 唇やのど，ほほに力を入れないように。

② 顔はまっすぐ前を向き，目は大きくあけて。

③ 肩や首に力を入れないように。

④ リコーダーは斜め前に。リコーダーに口をもっていくのではなく，口のほうにリコーダーをもってくる感じで。

イ 持ち方

(ア) 子どもは，リコーダーをくわえず，教師の見本どおり，一緒にやる。(教師の合図があるまでは音を出さない。)

(イ) 右手は，一番下(足部管)の指穴の空いていないところを持つ(本来は，右手親指と下唇で支えるが，慣れるまではこの方法でよい。指掛けを使用する場合は，はじめから右手親指で支えてもよい。)

(ウ) 後ろの指穴は，左手の親指の人差し指側の角，爪と肉の境目のところでふさぐ。

ウ 指穴のふさぎ方

(ア) 指先ではなく，指のふっくらしたところでふさぐ。

(イ) 指穴をふさぐとき，指は付け根から動かす。

(ウ) 軽い「ポンポン」という音がするようにする。

エ かまえ方

(ア) いすには浅く腰掛け，背筋はピンと伸ばす。

(イ) あごは引かず，まっすぐ前を見る。

(ウ) 体とリコーダーの角度は，45～60度くらいにする。

(エ) ひじは体に付けたり，横に張ったりせず，自然に，楽にする。

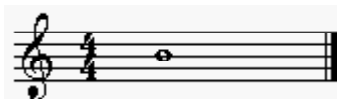


オ くわえ方（音はまだ出さない）

- (ア) 口の奥までリコーダーを入れず、吹き口の先をくわえる（あまり先すぎてリコーダーと唇の間にすきまができないように）。
- (イ) 下唇に軽く乗せて、上唇で包む感じ。

カ 息の使い方

- (ア) どこまでも続くような細くてまっすぐな息を出す練習。
 - a 息を吸うときは、花のにおいを嗅ぐようにゆっくり鼻から。
 - b 息を吐くときは、吸った息を一度止めて、上唇と下唇の小さなすきまから、少しずつ遠くまで伸びるように。
- (イ) 息の量が多すぎると「キャー」と叫んだ声、少なすぎると「お化け」のような声。
- (ウ) 四つ数える間に、自分の顔の前にシャボン玉をつくるような息。



キ タンギングの仕方、息のつなげ方

タンギングはリコーダーを吹くときの「いのち」、「タンギング」という言葉を覚えさせる。

【タンギングの指導例①】

タンギングとは、声を出さずに舌で「トゥー」と言うことです。音をはっきり始めたり、区切ったりする大事な役目をします。

1

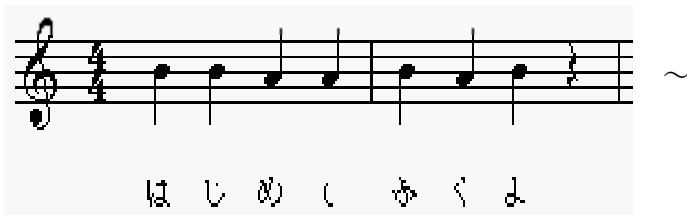


- (1) 声を出して、「トゥー」でうたいましょう。
- (2) 息だけの「トゥー」でうたいましょう。
- (3) リコーダーでタンギングをして吹きましょう。

2



【タンギングの指導例②】



- ① ことばでうたいましょう。 はーじーめーてーふーくーよー
- ② 「トゥー」でうたいましょう。 トゥートゥートゥートゥートゥートゥートゥー
- ③ 息だけの「トゥー」で、声を トゥートゥートゥートゥートゥートゥートゥー
出さずにうたいましょう。
- ④ リコーダーでタンギングをして トゥートゥートゥートゥートゥートゥートゥー
吹きましょう。

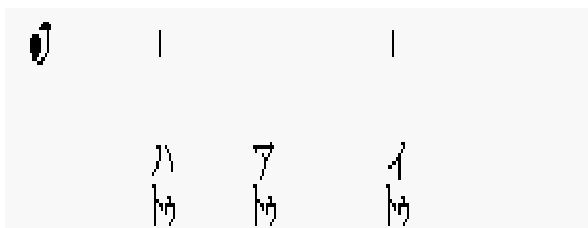
※ 「トゥー」と「トゥー」の間がとぎれて、「トゥッ トゥッ」とならないように気をつけましょう。

(3) シトウの音で、かんたんな音遊びをする。

ア 友達の名前を呼んでみる。「たなかさん」、「さとうさん」



イ 呼ばれたら答える。「ハアイ」



(4) そうじの仕方

ア エッジの部分にハンカチを当てて、吹き口から強めに息を吹き、溜まった唾を出す。

イ 頭部管を外し、ガーゼや薄いハンカチで覆った掃除棒で、管の中をある程度きれいに拭き取る。中部管、足部感も同様にする。プラスチックのリコーダーは、時々水洗いしてもよい（お湯は変形することがあるので使用しない）。

ウ ケースに入れて大切に保管する。頭部管（特にエッジの部分）が傷付くと、美しい音が出なくなるので、落としたり、ぶついたりしないようにする。